

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200285		
法人名	株式会社ケアシステム		
事業所名	グループホーム香春		
所在地	福岡県田川郡香春町大字香春776-2		
自己評価作成日	平成29年2月21日	評価結果確定日	平成29年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

職員の定着、有資格者、介護職を増やして行き届く介護を心がけています。その他は、地域との繋がりを大切に、日常の支援からリハビリに力を入れ、身体能力の低下防止に努めています。入居者一人ひとりが、その人らしい生活を継続して行ける支援に力を入れております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年3月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設された2ユニット型「グループホーム香春」は、香春町の中心市街地の一角にある。2年前から運営主体が代わり、昨年は敷地内に新たに障がい者入居施設も開設された。隣接施設入居の障がい者とも行事などで関わり、いずれは施設内清掃などでも協力してもらおうと考えている。系列法人は田川地区中心に障がい施設を運営しており、3ヶ月ごとの合同研修では外部講師も招いて、様々なテーマでの研修を開催している。運営が代わった2年前から地域交流にも力を入れ始め、自治会にも加入し、地域の方の立ち寄りも増えてきた。昨年は初めて事業所主催の秋祭りを開催し、多数の来訪も頂いた。人員配置も多めにすることで、ゆとりある介護を目指し、研修参加にも取り組んでいきたいと考えている。地域交流が深まってきたことで、今後は地域福祉に存在感を示す活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己		項目	自己評価	外部評価	
	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット玄関の見やすい所に設置して、スタッフ各自確認をしている	開設時からの理念をそのまま引き継ぎ、「利用者の人格の尊重～、自立した生活～、地域との結びつき～」の3つを掲げている。介護職として基本的な事を定め、申し送りの際などに管理者から伝えている。今期は特に職員からも意見を引き出し、個別ケアによる買い物や、地域交流などに取り組み始めている。	理念共有を更に職員と進めていくために、ホールなど目につくところへの掲示や、会議や申し送りの際の唱和など、理念に対しての意識を高めて馴染みが出てくるような取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	28年度より地域の組合に加入させて頂き、回覧板も回してもらい地域の方と交流をしている 地域の方が参加できる行事を企画して交流している	地域の自治会にも新たに加入し、相互に交流が始まった。昨年初めて事業所主催の秋祭りを開催し、地域内の掲示や回覧板での広報で周知した。たこ焼きなど飲食などの出店も、地域の方にも多数来訪いただけた。公民館での体操にも、元気な方がいる時には一緒に参加していた。近隣の酒屋さんとも交流が生まれ立ち寄りも増え、差し入れなど頂く事もあった。	地域交流も深まってきており、将来的には自治会活動などの参加も検討している。地元の小中学校や幼稚園などとの交流も地域関係者を通じて始まることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の理髪店や酒屋、お肉屋さんなどを利用して貢献している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は、スタッフ間で話し合い採用している	2ヶ月ごとに開催し、役場職員、地域包括、民生委員には来てもらっていたが、新町区長にも声掛けして参加してもらえるようになった。近隣他事業所の管理者にも声掛けしており、相互参加している。行事報告や入居者状況のほか、人員確保など日々の課題に関して話し合い、地域行事の案内を頂くこともある。議事録は所内掲示にて公開している。	家族に対しての開催案内がされておらず、参加もないため、案内、報告がなされることが望まれる。家族参加行事などとの同日開催や、食事会形式の開催などの検討などにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは密に連絡を取り、関係が十分に築けている	運営推進会議には毎回、香春町役場の職員に参加してもらっており、その際に相談もできる。決まった担当の方に来てもらうことが多いため、顔なじみにもなり、窓口や電話などでのやりとりがある。役場も近いので訪問もしやすく、協力関係が築かれている。生活保護の受け入れもあり、担当課とのやりとりも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、緊急的に拘束が必要になる場合があれば、家族と相談を行う	玄関は自動ドアで中からの開閉も自由にできる。鈴が鳴るようにしており、外出もわかるようにしている。系列法人での合同研修の際に身体拘束に関する研修を外部講師を招いて行った。スピーチロックに関しても、声掛けを意識し、気づいたときは管理者から注意している。	行政などから外部研修の案内はもらっているが、参加にはつながっていない。職員が参加しやすくなる働きかけや取り組みを行うことで、継続的に参加されていくことにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細な事でも原因究明をしている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して出来ている	入居前から成年後見制度を利用されている方が1名おり、外部の後見人とやりとりをしている。社内合同研修で取り上げたり、行政の行う外部研修にも参加している。必要時には主に管理者が担当し、外部の専門機関と協力して対応する。	制度資料やパンフレットなどを準備し、説明時などに活用できるようにすることが望まれる。継続的な研修や学習機会をもつことで、職員も含めて一般的な知識習得が進められることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	電話連絡だけではなく、状況に応じ面談を行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見等があった場合は、連絡ノートで周知を行い、管理者より口頭でも伝え反映している	家族が遠方の方も多く、頻繁に面会に来る方は少ないが、意見や要望は面会時に直接聞いている。頂いた意見は職員に周知し対応する。毎月事業所全体で写真報告を送付して日頃の様子を伝えている。何かあった際には随時電話での連絡も行う。	日頃表面にあがってこない意見などを引き出す取り組みとして、満足度調査やアンケートなども検討されてはどうか。また、家族参加が出来る行事案内なども行って、その際に家族同士の交流や意見が聞ける機会をつくってもよいのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が各スタッフより意見を収集して反映している	毎月ミーティングを開催し、その日の出勤者と可能な職員が参加している。話しやすい雰囲気にもなり、職員も自由に意見をあげており、行事の企画や備品の要望なども出され積極的に取り組んでいる。管理者も現場にいるため会議以外にも日頃から相談もしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を考慮して、処遇を改善している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮を行っている	統一したユニフォームを新しく導入し、職員の一体感にもつながっている。男女比も3:7程度で、20～50歳代の比較的若い職員が多い。法人合同研修が3ヶ月に1回あり、様々なテーマで学習されている。パートから正社員に昇格した職員もおり、資格取得も推奨している。運営も変わり風通しも良くなったことで、コミュニケーションも図られ、徐々に職員の定着率も高まってきている。	外部研修の案内が社員によって周知されたりなかったりで、職員の参加も少ないので、全員に同じように案内がなされ、積極的な参加がされることにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育は各職員個々に指導をしている	入居者の希望を職員の状況でとめたりしないように、入居者の立場に立ったケアを申し送りなどで個別に指導している。法人合同研修の際に認知症高齢者に関する理解や、精神障害、接遇などのテーマで外部講師にきてもらって学習している。系列法人が障がい主体のサービスをしているため、内部での取り組みへの意識は高い。	外部研修の案内はきているが、参加がされていないため、行政主体のものへの研修参加や、人権関連団体の資料などを活用した研修、資料回覧などが進められることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に一度開催される研修に参加をしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と事業所での課題を共有して交流を多くとっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて聞き取りを行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期では困っている事、不安な事の聞き取りを時間をかけて行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の意見を元に、支援内容についてアドバイスをを行い、優先順位を決めて支援をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を活用して、共に生活をして関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力でない御家族もおられるが、共に支える気持ちを持ち、できる限り行っている		

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	問題がある場合を除き、馴染の人との関係を保てるように努めている	近隣からの入居者も増えており、以前からの知人との付き合いを継続されており、近隣の商店の方が立ち寄ることもある。入居歴の長い方は付き合いも減ってきたが、何がしかの関わりをもってもらっている。一時帰宅や外泊する方もおり、個別支援で自宅周辺までお連れすることもあった。新たに地域の理髪店を使うようになった方もおり、地域との関係を築いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握し、席替えや職員が介入して支え合う支援を心がけている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から希望や意向を聞き取り、本人本位の支援に繋げるようにしている	本人からの訴えも減ってきたが、外食や買い物などの要望も日常の会話から聞き取り、プランに入れ込んで実現している。アセスメントは主にケアマネが担当し、半年ごとに見直しも行っている。意思疎通が難しい方は家族に聞いたり、日頃の反応を見るなどして意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に本人の意向を探り出し把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残像機能を生かし、心身の状況は神経質に把握している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合い計画に反映している、必要に応じて家族にも意見を頂き計画を立てている	各ユニットの計画作成担当者が主に担当し、プラン作成、アセスメントを行う。職員は毎日の申し送りで現場の情報を共有し、ケアプランもユニットごとに1ファイルで管理するためいつでも見れるようになっている。月のモニタリングは支援経過記録に記入する形でケアマネが行う。プラン見直しは半年ごとに行い、主に内部職員で担当者会議を開き、話し合っている。	全職員とのケアプラン内容の共有がファイル閲覧だけのため、プランごとの実施チェックや、記録時にプランも参照しながら出来るような一元管理やなどでプラン目標を意識したケアが出来るようにされてはどうか。毎月のモニタリングも、計画票の中に項目を設けることで、目標ごとの見直しがなされることにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートと一日2回の申し送りで情報を共有し、実践や介護計画に活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々客観的に観察を行い努力している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば地域資源を活用できるように支援をしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する、かかりつけ医に受診出来るように支援している	希望されれば外部のかかりつけ医を継続利用できるが、往診を望んで提携医に変えられる方も多い。外部の通院時も事業所から介助している。受診結果に関しては書面で報告したり、随時ご連絡をしている。非常勤の看護師と医療連携をとっており、病院や医師との情報共有を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とは常に些細な事も報告を頂き、介護職との協働に努めている		
34		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会を定期的に行い、医療機関と連絡相談をしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族と話し合いが出来ている	重度化の際には主治医と連絡を密にとって対応を進める。契約時に重度化の際の指針を説明しているが、現在までに看取りに対応した事例はなかった。提携医は緊急時や24時間対応も可能で、必要な時は夜間受診も可能である。終末期に差し掛かる方もいたが、最終的には入院されることが多い。	今後の対応に備えて、医療やターミナルケアに関する研修参加などが定期的になされることにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測される急変や事故発生は、対応方法を事前に確認している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を事前に確認をしている地域との具体的な協力体制は築けていないが、地域との繋がりも出来てきたので、今後体制を整えたい	年2回の防災訓練を行い、うち1回は消防署にも立ち会ってもらい合同訓練をしている。現状の所は日中想定をベースにしている。水と缶詰を備蓄している。防災マニュアルの整備を進め、現在避難場所に関して見直しをしている。新規入職者には避難経路や行動の引き継ぎも行う。	夜間想定訓練の実施や、地域との共同訓練についての相談、併設施設との合同訓練がなされることに期待したい。また、職員も持ち回りで訓練を担当することで避難行動の周知を図ることも望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重して、特に声掛けには注意をしている	「だめですよ」など、入居者の行動を抑制するような声掛けをしないように注意している。羞恥心にも配慮し、同性介助を希望されることがあれば対応している。法人合同研修の中でも接遇に関して取り扱い、内部での伝達もしている。写真利用に関しても現在書面での同意取得を進めているところである。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位の支援を行うため、可能な限り自己決定ができるように声掛けしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々が希望する日常生活に合わせるよう支援に努めています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別で衣類の買い物支援や、理髪店に同行しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事準備や、後片付けを行っている。栄養士が作成してメニューや、他事業所の献立を参考にして食事提供している	職員が調理を担当し、入居者にも手伝えることは手伝ってもらう。系列法人にいる栄養士にも協力してもらいメニューのアドバイスをもらっている。職員は同じ時間にそれぞれ個別で持ってきたものを食事している。食材は地元の商店からの配達や、買い出しによるもので準備している。月の誕生会の時におやつ作りをすることもある。個別に要望があり、状態で可能な際には外食もしており、敬老会などでは仕出しを受けることもある。	味付けや感想などを聞くためにも、事業所全体で各一食程度は検食担当も設けてはどうだろうか。

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に記録に残し、一人ひとりの状況に合わせて食事形態や食事時間の変更をしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、週に1回歯科に往診して頂き、ケアをしてもらっている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の間隔を把握し、トイレ誘導を行うと共に、全員の方にトイレで排泄が出来るように支援している	入居者ごとに個別で、バイタルチェックなどと一緒に排泄チェックを管理している。トイレでの排泄を基本として、失敗が少なくなったことで、パットの枚数を減らせることが出来た方もいる。気づいた職員が申し送りなどで提案し、随時改善に努めている。自立した方には自分でトイレに行ってもらい、後から聞き取ってチェックしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや運動への働きかけで予防している、排便回数などは毎日申し送りで確認して予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	物理的に困難な為に行えていないが、出来る限り希望に合わせることが出来るように努めている	各ユニットの造りは共通の家庭用ユニットバスで、手すりが据え付けられている。基本的には昼から夕方までの時間で一人週3回の入浴を提供しており、拒まれる方には無理強いせず、清拭や整容で対応し保清している。シャンプーやせっけんなどはお肌の弱い人向けにその人に合う物を個別に試しながら提供している。皮膚観察や健康管理の機会としても役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々の状況に応じて、休息がとれるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の情報を、個別にファイルにして、確認しやすいようにして把握している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しんで生活が送れるように、嗜好品や役割を持ってもらい支援している		

H29.3自己・外部評価表(GH香春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食等、希望に応じて同行支援を行っている	近隣の神社や公園などは気軽に散歩などで訪れており、全体での外出レクとしては花見や初もうでなどに歩いて行っている。個別や少人数では車を使って外食や買い物などにもいっている。日常的には近隣に歩いて行ける範囲での外出をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持や使用できる方には、毎月出金を代行して所持して頂き、パンやジュースの買ったりしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したい方でも書けない場合は職員が代筆して郵便に出している 施設の電話を使用できるようにしているので、希望があれば家族等につないでいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで利用者が作成した物を、皆さん一緒に毎月ホールに飾りつけを行っている 空調の調整を徹底して行っている	スタッフルームと事務室を中心に左右にユニットが配置されている。ホールを中心として面する形で居室が配置されており、事業所内での見通しは良い。食事をするダイニングテーブルとテレビ周りのソファスペースがあり、各ユニット40畳程度の広さがあり、行き来もしやすい。壁には季節ごとの飾りつけや行事の写真が飾られている。三面が窓に囲まれているため採光も良く、開放感がある造りである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が比較的広いため、思い思い過ごさせている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みの物を持ち込んでいただき、家族、本人と話し合い配置など工夫している	ホールから続きのバリアフリー仕様でビニール張りのため清掃もしやすい。ユニットで1畳ほど広さは異なるが、基本的に共通の造りである。介護ベッド、ドレッサーが備え付けられており、馴染みの物の持ち込みも自由だが、事業所の衣装ケースやタンスを借りて使うこともできる。テレビの持ち込みも出来るようにしたが、ホールで過ごす方が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時々状況に合わせて、手すりを増やしたり、介護用品を取り入れたりして環境の整備を行っている		